

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・子どもの気づきや分かる喜びを大切に、基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力の向上を図り、楽しいと感じる授業を工夫する。
- ・ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進する。
- ・児童同士の学びを大切に、言語活動の充実と、基礎・基本の徹底により学びを定着させる。
- ・読書活動の推進により語彙力・想像力を向上させ、豊かな心を育てる。

石井町藍畑小学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの学年も落ち着いて学習に取り組み、与えられた課題にもまじめに取り組みることができる児童が多い。 ○ICT支援員の協力を得て、タブレットの基礎的な操作のスキルが身に付いている。デジタル教科書を活用し、個別最適な学びを実現している。 ●既習事項を生かした応用問題に苦手意識をもつ児童が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、話を聞いて内容を把握したりすることに課題がある。	・アンケートで「授業は分かりやすく楽しい」と答える児童を90%以上にする。 ・ICT機器を活用し、個々の能力に合わせた知識・技能の習得や、応用問題に取り組むことができる。 ・文章の内容を正確に読み取ったり、話をよく聞いて、内容を把握したりできる。	・子どもの気づきや分かる喜びを大切に、楽しい授業を工夫する。 ・タブレット端末を、授業だけでなく家庭学習でも活用するようにし、個々の能力に合わせた学習内容を提示する。 ・基礎基本の徹底だけでなく、既習事項を生かした応用問題や、日常での活用などを授業に取り入れる。 ・「作文読本」を活用し、視写したり、音読したり、作文を書いたりする活動を取り入れる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○答えを発表したり、文章を声に出して読んだりすることのできる児童は多い。 ●自分の考えを理由や例を挙げて話したり、自分の思いを伝えたりすることに課題がある。	・根拠や理由を明らかにして、自分の考えを表現したり、自分と友だちの意見を比べながら聞いたりすることで、考えを深めることができる。 ・アンケートで「進んで自分の考えを発表したり、話し合ったりする。」と答える児童を85%以上にする。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定したり、ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせたりする。 ・児童の発言や発表の内容に「なぜ」「どうして」など、思考を深める発問を行うなど、豊かな言語活動が展開されるようにする。 ・家庭と連携して言語環境を整える。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの児童が毎日宿題をし、提出している。 ○授業に対してまじめに取り組み、よく聞き、考える児童が多い。 ●応用問題に、粘り強く取り組むことのできる児童は少ない。 ●読書習慣の定着が十分ではない。	・基礎基本の問題だけでなく、応用問題や教科書に載っていない読解問題などにも最後まで取り組むことができる。 ・読書習慣を身に付け、前後期ともに、低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊の目標達成児童を80%以上にする。	・各教科の学習や家庭学習に、基礎基本の問題だけでなく、応用問題や教科書に載っていない読解問題などを取り入れる。 ・絵本の読み聞かせや図書委員による読書冊数の表彰に加え、イベントを行い読書への興味関心を高める。 ・本の貸し出しを推進し、家庭と連携して読書の習慣を身に付ける。			

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 鏗形 美絵 (第1学年担任)	委員 校長 下窪 耕司 教務 田中 千佳 教諭 宮北 真那	教頭 清重 正俊 教諭 武市 由美
----------------------------------------	-----------------------------------------------	----------------------

校長
下窪 耕司

【各校の取組状況の把握について】 学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員による報告等、様々な機会を捉え、情報交換や状況把握を行う。

